第二学年・総合的な探究の時間(C.S. Journey)実践報告

ー研修リーダープロジェクト・アカデミックプロジェクトを事例にー

大　塚　　圭（外国語科）

1．はじめに

C.S. Journeyは、2022年度から実施している「総合的な探究の時間（以下「総合探究」と記す）」の名称である。C.S.は中央大学杉並高等学校（以下「本校」と記す）の愛称である中杉を表すだけでなく、創造力のある(Creative)、自発的な（Self-motivated）生徒を育成したいという願いが込められている。Journeyは、探究活動における3つのプロセスであるPreparation（準備）・Participation（参画）・Independence（自立）を意味している。

1年次（準備）では、本校のオリジナル教材を使用してSDGsや探究のプロセスを学び、フィールドワークを計画・実施する[1]。2年次（参画）では、研修旅行（沖縄・奄美大島・東北・マレーシア・韓国）をテーマにしたリーダープロジェクトと中央大学と連携したアカデミックプロジェクトに分かれる。研修リーダープロジェクトでは、生徒が研修内容や事前・事後学習を検討するだけでなく、学習テーマについて問いを立て、現地での調査を実施し、その内容をまとめ、発表する。アカデミックプロジェクトでは、中央大学の学部に関連する学問分野について学び、プロジェクトを立案・実施したり、外部機関が主催する各種プログラム・コンテストに参加したりする。3年次（自立）では、文コースは、1・2年の総合探究の集大成として、自身で設定した探究課題の

[1] 詳細は、中央大学杉並高等学校『紀要第32号』「第一学年・総合的な探究の時間（C.S. Journey）実践報告―オリジナル教材「探究×SDGs」からフィールドワークの企画・実施まで―」pp.31-53を参照されたい。

解決に資する論文を執筆する。理コースは、理数探究において自身で設定した探究課題を観察、実験、調査などの分析を通して解決できるようにする。また、専門的な探究の見方・考え方を働かせて、課題を深く掘り下げる各教科の選択科目が設定されている。C.S. Journeyは、このような3つのプロセスを経て「持続可能な社会の創り手」[2]を育成する探究プログラムである。

本稿では、2023年度に実施した第二学年における研修リーダープロジェクト及びアカデミックプロジェクトについて報告する。

2．研修リーダープロジェクト

（1）概要

研修リーダープロジェクトでは、生徒が事前・事後学習を検討し、リーダーとして旅行を企画・実施する。また、研修先の社会事情や地域課題について問いを立て、現地での調査を通して、その内容を考察し、レポートを作成することで社会に参画することを目指している。

研修旅行の行き先は、沖縄・奄美大島・東北・マレーシア・韓国であり、テーマはそれぞれ「平和学習」「自然環境保護」「防災学習」「多文化共生社会」「グローバルパートナーシップ」である。まず、生徒は、5つのコースから研修先を選び、次に、研修リーダープロジェクト及び後述するアカデミックプロジェクトのどちらに参加するかを決める。研修リーダープロジェクトを選択した生徒は、旅行を企画・実施するための中心的な役割を担い、残りの生徒は、アカデミックプロジェクトに参加する。2023年度の各コースの参加者及び研修リーダーの人数は以下になる。

---

[2] 学習指導要領（前文）には、「一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」（文部科学省 2018a、p.17）と明記されている。

各コース（テーマ）	参加者	研修リーダー
沖縄（平和学習）	78	25
奄美大島（自然環境保護）	76	25
東北（防災学習）	22	22
マレーシア（多文化共生社会）	71	26
韓国（グローバルパートナーシップ）	71	29

研修リーダープロジェクトでは、本校のオリジナル教材「研修リーダープロジェクト～共に育ち、共に創る学びの場をデザインする～」を使用する。本教材は、学際的な特徴を有する総合探究で汎用的に活用することを目的とし、ワークシート1枚から探究活動ができるように作成されている。研修リーダーは、ワークシートを使用しながら、研修先の知識を身に付け、アカデミックプロジェクトに参加している生徒にその知識を共有し、学習テーマについて現地での調査を実施するためのサポートをする。

オリジナル教材：表紙

オリジナル教材：ワークシート

（2）研修リーダー対象の探究活動

2023年度は、1学期（4月～7月）に前述した教材を使用して、研修リーダーを対象に9回の授業を実施した。研修リーダー以外の生徒は、アカデミックプロジェクトに参加することになる。以下は、1学期の授業概要[3]である。

概要（2023年4月～7月：土曜日2時間目）

	日 程	プログラム	活動内容
1	春休み	研修先の書籍を読もう	各研修先に関する書籍を読む
2	4月15日	お互いを知ろう	自己紹介及び研修先に関する書籍を共有する
3	4月22日	研修先を調べる	各研修先のキーワードについて調べる
4	5月13日		
5	5月20日	現地の人に聞こう	疑問に感じたことをインタビューする
6	5月27日	動画を作成する①	グループで調べたキーワードを共有する
7	6月10日	動画を作成する②	コンセプトに基づいた動画を作成する
8	6月17日	情報共有会に向けて	各研修先における情報共有会の準備をする
9	6月24日	(全体)情報共有会	作成した動画を共有する
10	7月 1日	振り返り	情報共有会についての振り返りをする

まず、研修リーダープロジェクトに所属している生徒は、春休みの宿題として各研修先に関する書籍を読み、知識を深める。その後、グループで訪問先における必要な情報についてキーワードを参考に調べ学習を行う。このキーワードは、研修先ごとに設定されている。以下は、奄美大島で使用したキーワードである。

[3] 各研修先の5コースでの授業内容は、すべて同じではなく、多少の違いがあるため、授業概要は大まかな流れを示しているものである。

観光行政	自然保護	文　化	その他
・オーバーツーリズム	・生物多様性	・教育（文化継承）	・人口減少
・世界遺産登録	・固有種生物と保護	・方言（島言葉）	・高齢化
・外来種対策	・海の環境保護	・食文化	・地形の成り立ち
・産業と雇用	・ロードキル	・大島紬	・奄美大島の歴史
・移住者推進	・マングローブ	・自然信仰	・奄美大島とハブ

生徒は、上記のキーワードについて調べるとともに、グループでその内容をまとめ、動画を作成する。また、動画作成のヒントを得るために、研修先の現地の方とオンラインで疑問に感じたことを質問する機会を設定している。作成した動画は、情報共有会でアカデミックプロジェクトに参加している他の生徒と一緒に視聴する。研修リーダーが率先して訪問先について学び、それらを他の生徒に共有することで協働的な学びを構築する。

4月15日　研修先の書籍を共有する

5月13日　オンライン質問会（沖縄）

5月27日　動画作成

6月24日　情報共有会

（3）全生徒対象の探究活動

2学期（9月～12月）は、1学期と同様にオリジナル教材「研修リーダープロジェクト～共に育ち、共に創る学びの場をデザインする～」を使用して授業を実践した。1学期との相違点は、アカデミックプロジェクトに参加していた生徒が授業に加わり、研修リーダーが中心となって学習テーマについて問いを立て、現地での調査計画を立てる（探究アクション）。以下は、2学期の授業概要[4]である。

概要（2023年9月～12月：土曜日2時間目）

	日 程	プログラム	活動内容
1	夏休み	(全体)個人探究実践	個人で深く調べたい事柄を探究する
2	9月 2日	(全体)発表会	夏休みの個人探究実践を発表する
3	9月 9日	グループ分け	探究アクションのグループ分けをする
4	9月30日	(全体)問いを設定①	「社会事情」や「地域課題」を考える
5	10月14日	(全体)問いを設定②	探究アクションを決定する
6	10月28日		
7	11月 1日	(全体)事務連絡	部屋割りや訪問先での役割などを確認する
8	11月 4日	(全体)旅行会社説明会	(海外)保険・外貨(国内)荷物配送など
9	11月11日	(全体)事前調査	探究アクションに必要な情報を調べる
10	11月18日		
11	11月22日	(全体)現地調査計画①	行程表を参考に具体的な調査を計画する
12	11月25日	研修のしおり作成	各研修コースのしおりを作成する
13	11月29日	(全体)現地調査計画②	探究アクションの内容を旅行会社に提出する
14	12月 2日	(全体)最終確認	研修旅行に向けて最終的な準備を進める

[4] 11月1日(水)、11月22日(水)、11月29日(水)は、水曜日の5時間目に設定されているロングホームルーム(LHR)を活用している。また、9月9日(土)及び11月25日(土)は、研修リーダーのみで授業を行っている。授業概要は大まかな流れを示しており、各研修先で適宜現地とのオンライン質問会などを実施している。

まず、2学期は、夏休みの課題であった個人探究実践の発表を行う。個人探究実践は、研修先で調べ学習を行う前に、個人の疑問を整理・理解することを目的とし、探究まとめ動画（2〜3分程度）または、探究まとめレポートを作成する。その後、研修リーダーが各生徒の興味のあるテーマごとに探究アクションのグループを決定する。2学期は、基本的に探究アクションのグループで研修先の社会事情や地域課題について問いを設定し、現地での具体的な調査を計画する。以下は、各研修先の探究アクションにおけるテーマの一部である。

探究アクション（テーマ）	沖縄	オーバーツーリズムによる弊害の解決策を考える
		戦時中の海軍とその周辺環境を考察
	奄美大島	奄美大島におけるクルーズ船増加がもたらす負の影響
		ロードキル問題とその解決策を考える
	東北	東日本大震災後の地区ごとの現状
		伝統を継承するために―東北の伝統工芸品、伝統芸能の現状とは―
	マレーシア	マレーシアで飲食店を開くには
		日本とマレーシアはどっちがお得？？
	韓国	日韓のコンビニの差異から紐解くそれぞれの国でのニーズの違い
		New Korean Food or Old Korean Food

生徒は、設定した問いについて考察するために、訪問先でのインタビューやアンケートを計画する。また、タクシー研修やB&Sプログラム[5]では、各グループで訪問する場所を決め、行程表を作成し、より柔軟に探究アクションを実施することができる。このように、2学期は、学習テーマについて問いを立て、現地で調査を実施できるように準備することを目的としている。

[5] ブラザー＆シスタープログラムの略で、グループに現地学生がつき街を散策するプログラムである。

9月2日　個人探究実践　発表会

9月30日　「問い」を設定

（4）研修旅行

2024年1月10日から1月13日の3泊4日の日程（マレーシアコースは3泊5日）で沖縄・奄美大島・東北・マレーシア・韓国の各コースで研修旅行を実施した。各コースの主な訪問先及び活動内容は以下になる。

沖縄	ひめゆり平和祈念資料館/師範健児の塔/富盛の石彫大獅子/旧海軍司令部壕 フィールドワーク：基地問題・サンゴ問題/民泊/タクシー研修など
奄美大島	あやまる岬/ゼログラヴィティ/グラスボート/油井岳展望台 マングローブパーク/奄美自然観察の森/街頭インタビューなど
東北	おらが大槌夢広場/三陸鉄道（震災学習列車）/東日本大震災遺構伝承館 東松島市防災備蓄倉庫/災害科学国際研究所（東北大学）/タクシー研修など
マレーシア	ハラル産業開発公社/バティック（ろうけつ染め）体験/カンポンビジット 行政都市プトラジャヤ/B&Sプログラムなど
韓国	第3トンネル/ドラサン展望台/統一村/松島セントラルパーク 仁川国際高等学校との交流/B&Sプログラム/班別自主研修など

上記の訪問先及び活動内容は、一例であるが、基本的に生徒は、2学期に設定した探究アクションにおける問いについて現地調査を実施する。特に、各コースで設定されているタクシー研修やB&Sプログラムでは、インタビューやア

ンケート調査をすることで研修先の社会事情や地域課題を考察するためのデータを収集する。詳細は、本紀要の2023年度研修旅行の沖縄コース、奄美大島コース、東北コース、マレーシアコース、韓国コースにおける実践報告を参照されたい。

民泊　入村式（沖縄）

カヌー体験（奄美大島）

東北大学　発表（東北）

B&S　インタビュー調査（マレーシア）

仁川国際高等学校との交流（韓国）

（5）事後学習

3学期の事後学習では、研修旅行の探究アクションを通して、グループで設定した問いについて収集したデータをまとめ、分析し、考察する。また、グループごとにスライドを作成してコース別発表会や全体発表会の準備をする。スライドは、タイトル、問い（テーマ）、調査方法、データ分析、考察、結論が伝わるように構成する。最後に、生徒は、個人で探究アクションについてレポートを執筆して提出する予定である。以下は、3学期の授業概要[6]である。

概要（2024年1月～3月：土曜日2時間目）

<table>
<tr><th></th><th>日 程</th><th>プログラム</th><th>活動内容</th></tr>
<tr><td>1</td><td>1月27日</td><td rowspan="3">スライド作成</td><td rowspan="3">探究アクションの発表を準備する
（データ分析・考察など）</td></tr>
<tr><td>2</td><td>2月 7日</td></tr>
<tr><td>3</td><td>2月14日</td></tr>
<tr><td>4</td><td>2月17日</td><td>コース別発表会</td><td>各コースで発表する</td></tr>
<tr><td>5</td><td>2月24日</td><td>成果報告会</td><td>他コースの生徒に発表する</td></tr>
<tr><td>6</td><td>3月 2日</td><td>全体発表会</td><td>各コースの代表グループが発表する</td></tr>
</table>

このように、1学期から3学期まで研修旅行と探究活動を紐づけてフィールドワークを計画・実施することで、生徒一人ひとりが問題意識をもって現場を訪れ、見学やインタビューを行うことで、その問題に対する理解を深め、よりよい解決策を提案することができる。

[6] 2月7日（水）及び2月14日（水）は、水曜日の5時間目に設定されているロングホームルーム（LHR）を活用している。

1月27日　スライド作成　データ分析

3月2日　全体発表会

3．アカデミックプロジェクト

（1）概要

アカデミックプロジェクトは、自分たちで問いを立て、選んだ分野の学問のアプローチを用いて解決方法を追究することを目的としている。また、大学や研究機関と連携し、より専門的な問題解決アプローチを身につけることで社会に参画することを目指している。

アカデミックプロジェクトは、法学・政治学プロジェクト、商学・経済学プロジェクト、STEAM探究プロジェクト、グローバルプロジェクト、文化活動プロジェクトに分類される。各プロジェクトには、中央大学の先生方にアドバイザーの役割を担っていただき、学問的アプローチを用いたアドバイスを参考にして生徒は探究活動を進めていくことになる。2023年度の各プロジェクトの概要及び参加者の人数は以下になる。

各プロジェクト	概　　要	参加者
法学・政治学プロジェクト	法学や政治(行政)学を用いて物事を捉える	40
商学・経済学プロジェクト	経済の仕組みを理解してビジネススキルを学ぶ	39
STEAM探究プロジェクト	文理融合型のアプローチを身につけて実践する	39
グローバルプロジェクト	グローバルな視点で様々な社会問題を解決する	40
文化活動プロジェクト	芸術文化等の活動を積極的に親しむ基礎を形成する	32

アカデミックプロジェクトでは、本校のオリジナル教材「アカデミックプロジェクト～学問の探究を通して社会に参画する～」を使用する。本教材は、研修リーダープロジェクトと同様に、学際的な特徴を有する総合探究で汎用的に活用することを目的とし、ワークシート1枚から探究活動ができるように作成されている。生徒は、ワークシートを使用しながら、プロジェクトを立案・実施したり、外部機関が主催する各種コンテストに参加したりする。

オリジナル教材：表紙

オリジナル教材：ワークシート

（2）探究活動

2023年度は、前述した教材を使用して、11回の授業を実施した。生徒は、選んだ分野の学問のアプローチを用いて探究活動を行う。以下は、アカデミックプロジェクトにおける年間の授業概要[7]である。

[7] 2月21日（水）は、水曜日の5時間目に設定されているロングホームルーム（LHR）を活用している。

概要（土曜日2時間目）

	日程	プログラム	活動内容
1	4月15日	基調講演	学問的アプローチに関する大学の先生の講演
2	4月22日	テーマを考える①	興味のあるテーマごとにグループを編成する
3	5月13日	テーマを考える②	何にどのように取り組みたいかを決定する
4	5月20日	共有	グループでの取り組みを共有する
5	5月27日	探究活動	それぞれのプロジェクトに取り組む
6	6月10日		
7	6月17日	中間報告会	大学の先生に進捗状況を発表する
8	7月 1日	探究活動	それぞれのプロジェクトに取り組む
9	9月 9日	探究活動	文化祭での展示発表の準備をする
10	11月25日	成果報告会	大学の先生にプロジェクトの成果を発表する
11	2月21日	全体発表会	各プロジェクトの代表グループが発表する

まず、アカデミックプロジェクトに所属している生徒は、各プロジェクトにおいてアドバイザーの役割を担っていただいている中央大学の先生方から社会問題を解決するための学問的アプローチを学ぶ（基調講演）。その後、基調講演を参考にし、生徒は、興味のあるテーマごとにグループを編成してそれぞれの探究活動に取り組むことになる。各グループのテーマは多岐に渡るが、最終的には、コンテストへの参加やレポート作成、イベントの開催、文化祭での展示発表など、目標を設定してプロジェクトを進めていく。また、中間報告会及び成果報告会では、大学の先生に発表をし、アドバイスをいただく機会を設けている。アカデミックプロジェクトの生徒は、2学期から研修リーダーを中心とした探究活動に参加するため、1学期以降は、基本的に放課後などに集まってプロジェクトを進め、11月の成果報告会までにコンテスト参加やレポート作成などの目標を達成できるように自主的に活動することになる。

4月15日　基調講演

11月25日　成果報告会

（3）法学・政治学プロジェクト

法学・政治学プロジェクトは、法学や政治（行政）学を用いて物事を捉えることを目的としている。以下は、2023年度に生徒が取り組んだプロジェクトの概要である。

法学・政治学プロジェクト

プロジェクト	概　　要
立ち退きーず	立ち退きに関するドラマを制作する
地域創生	地域創生のためにできることを考える（展示）
日本の防衛政策	日本の防衛政策について調査し、レポートを作成する
アニメで振興！杉並区	アニメと関連させたビジネスモデルを提案（コンテスト）
裁判傍聴をしてみよう！	裁判傍聴をし、その疑問点や印象を考察する（展示）
チーム裁判	メタバース模擬裁判体験や裁判傍聴に参加（展示）
銃の保持に関する法律	海外と日本の銃所持に関する法律を考察してレポート作成
いじめ解決プロジェクト	いじめの現状を調べ、新しい法律を提案（コンテスト）
School regulation	事例を設定し、校則について考察する（展示）
地方創生プロジェクト	栃木県茂木町を実際に訪問し、地域の課題を調査（展示）

一例として、アメリカ合衆国の銃の保持に関する法律について調査をしたグループを取り上げる。生徒は、銃に関するアメリカの法律やアメリカの過去の事件を調べるとともに、それらを銃に関する日本の法律や日本の過去の事件と比較しながら考察した。また、護身用として銃を保持するアメリカと銃を規制し事件を防ぐ日本の相違点を明確にするために、文化祭でアンケート調査を実施した。最終的には、アンケートの結果を踏まえてレポートを作成した。

（4）商学・経済学プロジェクト

商学・経済学プロジェクトは、経済の仕組みを理解してビジネススキルを学ぶことを目的としている。以下は、2023年度に生徒が取り組んだプロジェクトの概要である。

商学・経済学プロジェクト

プロジェクト	概　　要
シャレン(社会連携活動)	「シャレン!」を通してスポーツの魅力を伝える
沿線まるごとホテルの支援	奥多摩町の現状を調査してポスターを作成（展示）
若者×防災	若者の興味を引く防災グッズを提案
Vegetable Lovers	プラチナ触媒を使用した食品ロスの削減を提案
勉強カフェ	カフェを併設した自習室を提案(コンテスト)
ゴミの出ない自販機	ゴミのでない自販機の提案(コンテスト)
おにぎりプロジェクト	おにぎりアクションの動画を作成
高齢者向けの就業	高齢者向け人材派遣サービスを提案(コンテスト)

商学・経済学プロジェクトの特徴としては、高校生ビジネスプラン・グランプリなどのコンテストに参加していることを挙げることができる。また、シャレンやおにぎりアクションのような社会貢献活動に興味を持ったり、参加したりするプロジェクトがあった。シャレンは、社会課題の解決を目指して地域の人や企業、自治体、学校などとJリーグのクラブが連携して取り組む活動である[8]。一方、おにぎりアクションは、おにぎりの写真をSNSに投稿すると、1枚の写真につき給食5食分に相当する寄付（100円）を協賛企業が提供し、認定NPO法人TABLE FOR TWO Internationalを通じてアフリカ・アジアの子どもたちに給食を提供できる取り組みである[9]。多くのグループがコンテストへのエントリーや動画・ポスターの作成などを最終的な成果物として提出した。

（5）STEAM探究プロジェクト

STEAM探究プロジェクトは、文理融合型のアプローチを身につけて実践することを目標としている。特にデータの収集や実験などを行い、得られた情報を分析したり、考察したりするプロジェクトが多かった。以下は、2023年度に生徒が取り組んだプロジェクトの概要である。

[8] https://www.jleague.jp/sharen/about/
[9] https://onigiri-action.com/about/

STEAM探究プロジェクト

プロジェクト	概　　要
TEAM STEAM	算数ドリルを普及するプロジェクトを実施
渋滞を回避する	渋滞の解消方法について調査する(展示)
前髪におけるヘアスプレーの商品比較	前髪の崩れにくさを実験(展示)
シャー芯の耐久力	シャー芯の折れにくさを会社ごとに比較(展示)
あさがお	朝顔の咲き分けについて調べる(展示)
マリーゴールドを育てよう	環境変化とマリーゴールドの関連性(展示)
算数ドリルを世界に広めよう	算数ドリルをクメール語で制作
木から紙へ	木から紙ができるまでの工程を調べる
大谷翔平のバッティングは凄い！	大谷翔平選手のデータを考察する(展示)
自然と人間の共生	すごろくで公園を散歩する動画(コンテスト)

一例として、前髪におけるヘアスプレーの商品を比較したグループを取り上げる。このグループは、前髪の崩れを気にせず、日常をより快適に過ごせるようにすることを目的としている。頭部のマネキン、エクステ、各会社のヘアスプレーを使用し、前髪の崩れにくさを実験した。学校内にあるサーキュレーターを使用し、10段階のうち、グループメンバーが「前髪が崩れた」と判断した風量を平均した数値を測定した。最終的には、前髪が崩れにくいヘアスプレーの商品をランキングにして文化祭で展示発表を行った。

（6）グローバルプロジェクト

グローバルプロジェクトは、グローバルな視点で様々な社会問題を解決することを目的としている。以下は、2023年度に生徒が取り組んだプロジェクトの概要である。

グローバルプロジェクト

プロジェクト	概　　要
SDGsフェアトレードプロジェクト	文化祭でフェアトレード紅茶の販売（イベント）
牛乳で世界を救う	牛乳からプラスチックを制作する（コンテスト）
米ストローってなに？	米ストローの重要性を知ってもらう（展示）
校内模擬国連	校内で模擬国連を開催する（イベント）
子ども食堂	子ども食堂の現状を調査する（コンテスト）
フェアトレンジャー	フェアトレードマカロンの販売（イベント）
地球を救う抄繊糸	抄繊紙で作られた商品の普及（コンテスト）

中央大学杉並高校の文化祭で「かみのいとOJO」が展示されました

東京都杉並区の中央大学杉並高等学校の生徒たちが、同校で9月に開かれた文化祭で、「かみのいとOJO」の生地で作ったコースターやマスクなどを展示しました。展示では、OJO+のもつ軽量性・吸水性・通気性などの優れた機能性とともに、生分解性の高さといった環境への優しさを打ち出し、広く他の生徒たちにもOJO+の可能性を伝えてくれました。

「総合的な探究の時間」の授業の一環で、環境問題のなか、「身体（健康）に優しい」と、分かりやすくまとめました。

OJO+の展示を手掛けた生徒たちは今後、「SDGs QUEST みらい甲子園」で、この取り組みの発表を目指しています。王子ファイバーの松浦ふみさんは、「OJO+を介して、高校生たちの持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一助となれたことを、大変うれしく思います」

グローバルプロジェクトは、コンテスト参加やイベントの開催、展示発表と多岐に渡るが、一例として、抄繊紙で作られた商品の普及を目標としたグループを取り上げる。このグループは、気候変動対策をテーマに紙でつくった糸である抄繊紙について調査をすることにした。しかしながら、抄繊紙についてはインターネットで情報を得ることしかできなかったため、王子ファイバー株式会社に連絡をし、天然紙糸繊維「OJO+（オージョ）」を提供していただいた。生徒は、その「OJO+（オージョ）」を活用して若者向けの作品（マスク・コースター・ブックカバーなど）を制作した。それらを文化祭で展示発表

し、その様子をSDGs QUEST みらい甲子園にエントリーした。

（7）文化活動プロジェクト

文化活動プロジェクトは、芸術文化等の活動を積極的に親しむ基礎を形成することを目標としている。生徒の文化に関するテーマは、音楽やスポーツ、アニメなどを挙げることができる。以下は、2023年度に生徒が取り組んだプロジェクトの概要である。

文化活動プロジェクト

プロジェクト	概　　要
日本の研究力低下について	実際の研究者の声、研究費の現状を調査（展示）
セルフプロデュース音楽会	児童館で環境に配慮した音楽会を行う（イベント）
茨城における方言の調査	茨城の方言の現状を調査する（コンテスト）
日本のアニメの歴史と変遷	日本のアニメの歴史・変遷を調べ、考察する（展示）
音楽の流行の軌跡	音楽の流行を調べ、Webページを作成
歴史探究	浅草における浅草寺の役割について考察する（展示）
でこぼこボーリング[10]	年齢や性別に関わらず、楽しめるスポーツを考案
生協食堂の調査	現在の学食の利用状況を調査し、メニューを提案する

一例として、セルフプロデュース音楽会のグループを取り上げる。このグループは、探究活動で学んだSDGsについての知識を生かして、児童館で音楽会を開催するプロジェクトを企画した。ゴミになり得る素材で簡易的な楽器を自作し、それを使って演奏することで子どもたち

[10] 世界ゆるスポーツ協会の活動を参考にしている。

にSDGsについて理解してもらうことを目的にしている。近隣の児童館に問い合わせをし、計画を立て、子どもたちと一緒に2時間の音楽会を開催した。音楽会は、ペットボトルとビーズでマラカスを作ったり、カップ麺の容器や割りばしを使って太鼓を作ったりすることで子どもたちと音楽を楽しむだけでなく、SDGsについて一緒に考える機会になった。

４．おわりに

2022年度より高等学校では、旧学習指導要領における「総合的な学習の時間」が小・中学校での総合学習を基盤により高度化・自律化した活動を実施することを目的として、「総合的な探究の時間」に名称が変更された（文部科学省 2018b、p.8）。学習指導要領では、総合探究について以下のように記述されている。

> 教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科・科目等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする（文部科学省 2018a、p.20）。

第4章の第2の1とは、総合探究の目標を示しており、教育現場でのカリキュラムや教育内容・方法の決定に重要な役割を示している。このような総合探究の位置づけを実現するためには、学校全体のカリキュラム・マネジメントの一部として実施する必要がある。本校のC.S. JourneyにおけるPreparation（準備）・Participation（参画）・Independence（自立）は、学校全体で探究活動に取り組む3つのプロセスである。また、本稿で報告した研修リーダープロジェクトやアカデミックプロジェクトは、高大一貫教育や学校行事をカリキュラム・マネジメントの一部として捉えている。2年次におけるParticipation（参画）

が目標である探究の自律化・高度化を促すことができたかを明言することはできないが、カリキュラム・マネジメントを通して、学校全体で探究活動に取り組む一つの実践事例になれば幸いである。C.S. Journey における最後のプロセスである3年次の卒業論文や理数探究において「自立」したより高度化した探究活動になることを期待している。

参考資料

文部科学省（2018a）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」平成30年3月、文部科学省。
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf（2024年3月5日）

文部科学省（2018b）「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
総合的な探究の時間編」平成30年7月、文部科学省。
https://www.mext.go.jp/content/1407196_21_1_1_2.pdf（2024年3月5日）